

授業科目名： 生涯学習論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：三輪 建二 担当形態：単独
実務内容 (実務家教員の場合)			
科目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特になし		
<p>「学位授与の方針」との関係</p> <p>生涯学習論の授業を通して、教育および学習は「人を認める、人を排除しない、仲間を作る」という星槎の三つの約束を育て、守り、発展させるものであることを理解する。特に生涯学習は、共生社会創造の目的の為に、学び続ける意欲を持つことをめざすものであることを理解する。</p>			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>(1) 日本社会がかかえる問題とおとなの学びの意義について学習する。 (2) 成人性と成熟をめぐる理論を学習する。 (3) わが国の生涯学習の展開と取り組みを学習する。 (4) おとなの学びの理論1(経験の尊重、省察的実践論)を学習する。 (5) おとなの学びの理論2(意識変容の学習論)を学習する。 (6) 生涯学習の場(高等教育機関、企業、学校)での学びを学習する。 (7) 現職者(教員、看護専門職など)の学びを学習する。 (8) 星槎の3つの約束と生涯学習との関連性を学習する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>(1) 本講は20世紀中葉から国際機関および各国で大きな課題として浮上し、今日では「生涯学習は21世紀の扉を開く鍵である」(ユネスコ21世紀教育国際委員会、1996年)と言われる「生涯学習」について、その意義、歴史およびわが国の現状等についての基礎知識を学習することを目的としている。生涯学習・生涯学習論は1965年のユネスコ国際委員会(パリ)で提唱された学問分野で、わが国でもその理論・実践化が進められている。 (2) 生涯学習の理念が、「個人」の自発的な学習から学んだ成果を「社会」に生かす、「地域社会の創造」という視点に移っていることを理解する。 (3) 生涯学習の主な担い手である成人(おとな)に注目し、おとなの学習者(成人学習者)の特性と、その特性を生かした学習理論(経験の尊重、省察・ふり返りと省察的実践、意識変容の学習、自己決定型学習など)について検討する。 (4) 社会人学生の割合が多い星槎大学は、生涯学習の場として機能しており、おとなの学びと学び合いが豊かに展開されていることも、合わせて理解できるようにする。</p>			
<p>授業計画 * ()内は対応するテキストの章・節</p> <p>第1回：日本社会のかかえる問題点と生涯学習 (第1章「日本がかかえる問題とおとな」1～6)</p> <p>第2回：成熟をめざす学びと生涯学習 (第2章「成熟と共生をめざすおとなの学び」1～6)</p> <p>第3回：わが国の生涯学習政策の展開 (第3章「おとなの学びの語られ方：生涯学習」1～5)</p>			

<p>第4回：成人学習の理論1－学習資源としての経験論 （第4章「経験の尊重と問題の設定」1～4）</p> <p>第5回：成人学習の理論2－省察的実践論（第5章「省察的実践」1～4）</p> <p>第6回：成人学習の理論3－意識変容の学習論（第6章「意識変容の学習」1～5）</p> <p>第7回：成人学習の理論4－学び合うコミュニティ論 （第7章「学び合いを創造する」1～5）</p> <p>第8回：高等教育機関における生涯学習 （第8章「高等教育機関での学び合い」1～5）</p> <p>第9回：学校教員の生涯学習－学び続ける教員像（第9章「教師の学び合い」1～4）</p> <p>第10回：看護専門職の生涯学習（第10章「看護専門職の学び合い」1～5）</p> <p>第11回：企業とビジネスパーソンの生涯学習 （第11章「企業での学び合い」1～6）</p> <p>第12回：地域の人びとと生涯学習 （第12章「地域での学び合いと学校」1～4）</p> <p>第13回：学校を拠点とする生涯学習－コミュニティスクール （第12章「地域での学び合いと学校」5～6）</p> <p>第14回：生涯学習社会の構築－江戸時代を参考に （補章「江戸時代の学び合いの循環型社会」）</p> <p>第15回：生涯学習社会と学習社会の展望－講義のまとめ－（「おわりに」など）</p> <p>定期試験</p>
<p>教科書</p> <p>（1）三輪建二『おとなの学びとは何か：学び合いの共生社会 増補版』鳳書房（必ず購入すること）</p>
<p>補助動画教材</p> <p>今だからこそ共生の知を①～④</p> <p>https://www.youtube.com/playlist?list=PLwrsvYhJb8rKKLwM-kh2_e8T9Ozs-VtDt</p>
<p>参考文献</p> <p>（1）三輪建二『おとなの学びを育む』鳳書房、2009年</p> <p>（2）三輪建二『生涯学習の理論と実践』放送大学教育振興会、2010年</p> <p>（3）中村 香・三輪 建二『生涯学習社会の展開』玉川大学出版部 2012年</p> <p>（4）D・ショーン『省察的実践とは何か』鳳書房、2007年</p> <p>（5）I・ラシュトンほか『教師の省察的実践』鳳書房、2018年</p> <p>（6）N&K・アップルヤード『教師の能力開発』鳳書房、2018年</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>レポート評価（50%）、科目修得試験（50%）の割合で総合して評価する。</p> <p>※他者の著作物（書籍、雑誌、インターネット上の情報、他者が作成したレポートなど）をあたかも自分が書いたように見せかけることは、不正行為となる。</p>